

# 心臓植込み型デバイス手術における 新しい皮膚消毒剤オラネキシジンの有用性

心臓血管外科 宮野 雄太

2022年度クオリティマネジメント報告会

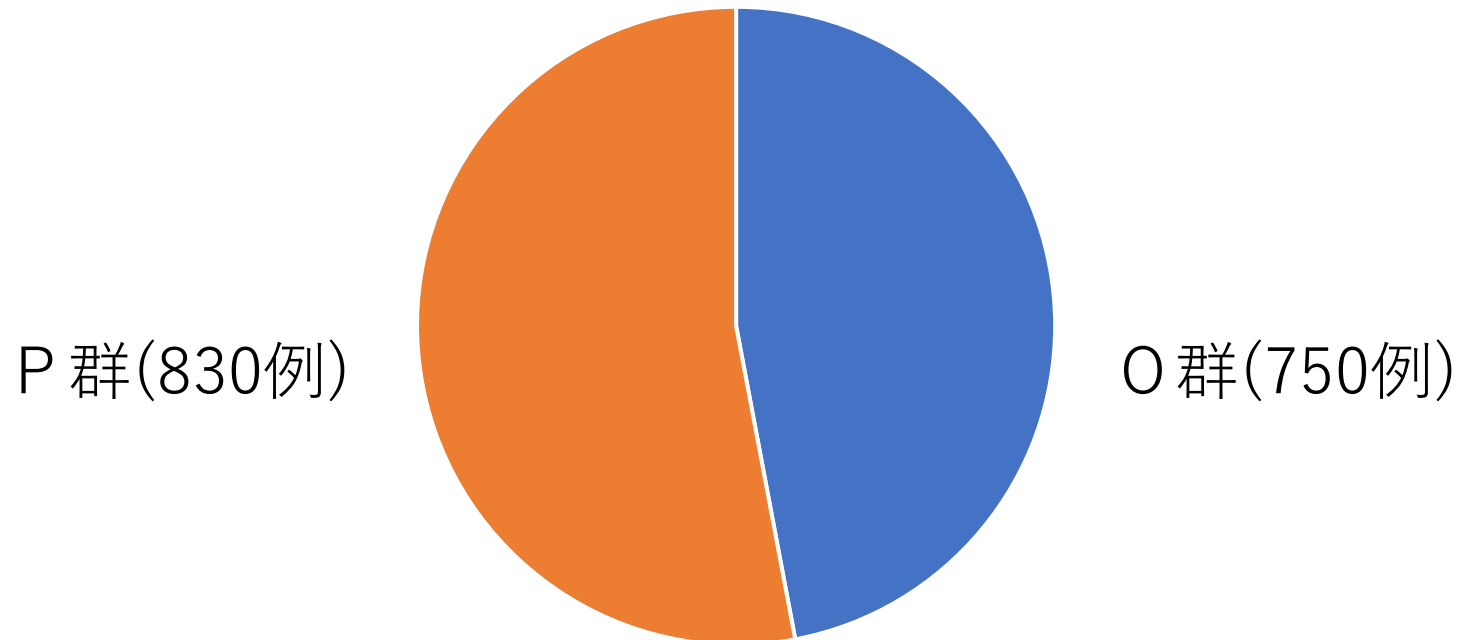
# 【目的】

- 皮膚消毒薬オラネキシジン(商品名 オラネジン；大塚製薬)は、本邦で開発され、2015年に発売された。
- 滅菌済みの一体型 applicator となっているため、より清潔な操作を行うことができるうえ、綿球やカップ、鑷子などの準備も不要である。
- 心臓植え込み型デバイス手術における手術部位感染症(以下、SSI)の予防効果について、オラネジンと、従来のポピドンヨードとを後方視的に比較、検討した。



# 【対象】

- 2013年1月から2020年3月までに当院で施行したペースメーカー手術1580例を対象とした。
- オラネジンを導入した2016年10月以降の症例をO群、以前のポピドンヨード使用例をP群と定義した。
- SSIの発生につき、2群間の比較検討を行った。



# 【結果】

	O群	P群
患者数	750	830
性別(男性)	379(50%)	421(50%)
年齢	76.1 ± 12.0	74.7 ± 12.2 *
BMI	22.0 ± 4.2	21.1 ± 3.8 *
糖尿病	133(17%)	158(19%)
維持透析	20(2.7%)	25(3.0%)
新規移植	569(76%)	580(70%) *
電池交換	153(20%)	227(27%)
リード追加	28(4%)	23(3%)
手術時間(分)	62	62.5

	O群	P群
SSI	6(0.8%)	9(1.1%)
発生日数(中央値)	62.5	34
新規移植	6(1.0%)	2(0.3%)
電池交換	0	7(2.8%) *

培養結果；MSSA 10例、MRSA 4例、起因菌不明1例  
→両群間で有意差なし

使用機器の種別(PM, ICD, CRT-D)、  
デバイスポケットの位置・深さごとに  
SSI発生率を比較したが、両群間で差はなかった。

\* ; p<0.05

# 【考察】

- オラネジンによる皮膚消毒は、SSIの予防効果において従来のポビドンヨードとの差はなかった。
- オラネジン使用群は、高齢、BMIが高いなどのハイリスク患者が多いにもかかわらず、同等の結果が得られた。
- デバイス長期留置後の交換手術でSSIが起こった場合、その後のデバイス抜去手術の際にリスクを伴うことが多いため、交換手術のSSIをより有意に抑制できるという点で、オラネジンの有効性の一面を見ることができる。

## 【結語】

- 心臓植え込み型デバイス手術の皮膚消毒におけるオラネキシジンは、ポピドンヨードと比較してSSIの予防効果が同等であるうえ、使用方法が簡便であり有用である。